

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、豊かな教養と専門の工学とを身につけた有為な実践的技術者の育成を使命とした高等教育機関として、静岡県東部地域産業界の強い要請と期待を背景に昭和37年に創設された。幅広い産業分野を抱える静岡県東部地域において、産業界との連携を強く持ち、地域の文化と産業の進展に寄与することができる人材を養成することを特色とする。その使命を果たすため、学則第1条において高等専門学校一般に求められる本校の目的を定め(資料1-1-①-1)、それを核にして、本校の教育理念、教育目的、教育方針、学習教育目標、養成すべき人材像を定めている。

資料 1-1-①-1

沼津工業高等専門学校学則(抜粋)

第1章 本校の目的

第1条 本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典 本校公式ウェブサイト、本校規則集)

平成20年5月に「沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則」を制定し、本校の教育理念、教育目的、教育方針、学習教育目標、養成すべき人材像、教養科・各専門学科の教育目的、本校の学生受入方針を明確に定めている(資料1-1-①-2)。

資料 1-1-①-2

沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則

○沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則

(平成20.5.14制定)

第1条 本規則は、教育基本法(昭和22年法律第25号)、学校教育法(昭和22年法律第26号)及び高等専門学校設置基準(昭和36年文部省令第23号)等関係法令の規定に基づき、沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育理念等について定め、もって教育活動の適正かつ円滑な運営を図ることを目的とする。

第2条 本校の教育理念は、次のとおりとする。

(1) 人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。

第3条 本校の教育目的は、次のとおりとする。

(1) 豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

第4条 本校の教育方針は、次のとおりとする。

- (1) 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- (2) コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- (3) 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- (4) 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

第5条 本校は、学習・教育目標として、学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- (1) 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- (2) 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- (3) 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- (4) 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- (5) 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

第6条 本校の養成すべき人材像は、次のとおりとする。

- (1) 社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

第7条 教養科の教育目的は、次のとおりとする。

- (1) 専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

第8条 機械工学科の教育目的は、次のとおりとする。

- (1) 機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第9条 電気電子工学科の教育目的は、次のとおりとする。

- (1) 電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第10条 電子制御工学科の教育目的は、次のとおりとする。

- (1) 電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第11条 制御情報工学科の教育目的は、次のとおりとする。

- (1) コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第12条 物質工学科の教育目的は、次のとおりとする。

- (1) 化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第13条 本校の学生受入方針は、次のとおりとする。

- (1) 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
- (2) 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- (3) 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- (4) 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

附 則

この規則は、平成20年5月14日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

(出典 本校公式ウェブサイト、本校規則集)

専攻科の目的は学則の第 45 条に定められ、本校の教育目的を基盤に研究指導を通じて人材育成を行うことをもって地域社会の産業と文化の進展に寄与するとしている。その目的を実現するための教育目標を学則第 46 条の 4 に明確に定めている（資料 1-1-①-3）。さらに、専攻科の教育目標を実践するための指針として、具体的達成目標を「沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針」として定めている（資料 1-1-①-4）。各専攻の目的（資料 1-1-①-5）は平成 23 年 2 月にスローガンとして定め、本校公式ウェブサイトに掲示した。

資料 1-1-①-3

沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第 45 条 専攻科は、高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じ工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

第 46 条の 4 専攻科は、第 45 条の目的を実現するため、次の各号に掲げる教育目標の達成に努めなければならない。

- (1) 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力（工学倫理の自覚と多面的考察力）
- (2) 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢（社会要請に応えられる工学基礎学力）
- (3) 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力（工学専門知識の創造的活用能力）
- (4) コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力（国際的な受信・発信能力）
- (5) 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢（産業現場における実務への対応能力と自覚的に自己研鑽を継続できる能力）

（出典 本校公式ウェブサイト、本校規則集）

専攻科 学習・教育目標の実践指針

学習・教育目標の実践指針

本専攻科の学習・教育目標は沼津高専学則 第 46 条の 4 に定める“A～E”である。これらの目標を理解し実践するために、各項目に分項目“1～4”等を付して実践指針とする。

A. 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。

(工学倫理の自覚と多面的考察力)

1. 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
2. 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
3. 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
4. これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

B. 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。

(社会要請に応えられる工学基礎学力)

1. 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。
2. ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。
3. 実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。
4. 自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。

C. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。

(工学専門知識の創造的活用能力)

1. 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。
2. 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。
3. 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。
4. 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力、種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出ししていく能力をいう。

D. コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力を身につける。

(国際的な受信・発信能力)

1. 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。
2. 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

E. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。

(産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力)

1. 指定された期限内に、課題を提出できる。
2. 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。
3. 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。
4. 自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。

(出典 本校公式ウェブサイト、専攻科規則集)

資料 1 - 1 - ① - 5

専攻科各専攻の目的

●機械・電気システム工学専攻

機械工学，電気電子工学を中心に深く学修し，さらに制御工学，コンピュータ工学，材料工学，および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

●制御・情報システム工学専攻

制御工学，コンピュータ工学を中心に深く学修し，さらに機械工学，電気電子工学，材料工学，および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

●応用物質工学専攻

材料工学，生物工学を中心に深く学修し，さらに機械工学，電気電子工学，制御工学，およびコンピュータ工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

(出典 本校公式ウェブサイト、専攻科概要)

(分析結果とその根拠理由)

学校教育法に基づき目的を定め、その実現のために、本校の教育理念、教育目的、教育方針、学習教育目標、養成すべき人材像、教養科・各専門学科及び、専攻科の目的、教育目標、教育目標の実践指針、各専攻の目的を資料に示すとおり全て明確に定めている。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

教職員に対しては、学生便覧（資料 1-2-①-1）の配布と本校公式ウェブサイト（資料 1-2-①-2）により周知し、特に新任教職員に対しては、本校概要（資料 1-2-①-3）及び新任教職員オリエンテーション（資料 1-2-①-4）で説明し周知している。学生に対しては、学生便覧（資料 1-2-①-1）の配布と、特に新入生に対しては新入生オリエンテーション（資料 1-2-①-5）で説明し周知している。本校の教育理念と学習・教育目標が日常的に教職員及び学生の目に触れるようにし周知度の向上を図る目的で、平成22年度末にパネル（資料 1-2-①-6）を作成し校内の主だった場所に掲示した。

資料 1-2-①-1

教育理念等を掲載した学生便覧表紙裏面



教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

教育方針

- 1 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする

- 1 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 2 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 3 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 4 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 5 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

（出典 平成 23 年度学生便覧表紙裏面）

教育理念等を掲載した本校公式ウェブサイトの該当部分



NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

POLICY

—沼津工業高等専門学校教育理念、教育方針等—

教育理念

**「人柄のよい優秀な技術者となって
世の期待にこたえよ」**

教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与すること。

教育方針

- 一、低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- 一、コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 一、実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 一、教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- 一、技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 一、自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 一、工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 一、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 一、実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

学生受入方針

- 一、科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
- 一、自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 一、科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 一、他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

(出典 本校公式ウェブサイト)

教育理念等を掲載した沼津高専概要の該当ページ



独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY



- 所在地 静岡県沼津市大岡3600
- 創立 昭和37年4月1日
- 学 科
 - 機械工学科
 - 電気電子工学科
 - 電子制御工学科
 - 制御情報工学科
 - 物質工学科
- 修業年限 5年
- 専 攻 科
 - 機械・電気システム工学専攻
 - 制御・情報システム工学専攻
 - 応用物質工学専攻
- 修業年限 2年
- 学生定員 1,040名
- 施 設
 - 敷地 89,599㎡
 - 建物 35,538㎡

- **教育理念** 人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ
- **教育目的**
豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。
- **教育方針**
 - 1 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
 - 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
 - 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
 - 4 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。
- **学習・教育目標**
学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。
 - 1 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
 - 2 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
 - 3 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
 - 4 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
 - 5 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢
- **養成すべき人材像**
社会から信頼される、指導力ある実践的技術者
- **各科教育目的**
 - **教養科**
専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成すること。
 - **機械工学科**
機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。
 - **電気電子工学科**
電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。
 - **電子制御工学科**
電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。
 - **制御情報工学科**
コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。
 - **物質工学科**
化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。
- **学生受入方針**
 - 1 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
 - 2 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
 - 3 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
 - 4 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

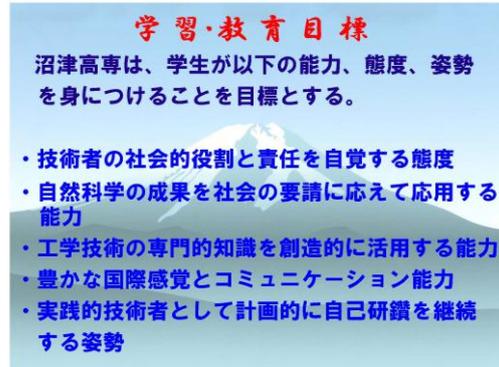


2

(出典 平成 23 年度 沼津工業高等専門学校概要 P. 2)

資料 1 - 2 - ① - 4

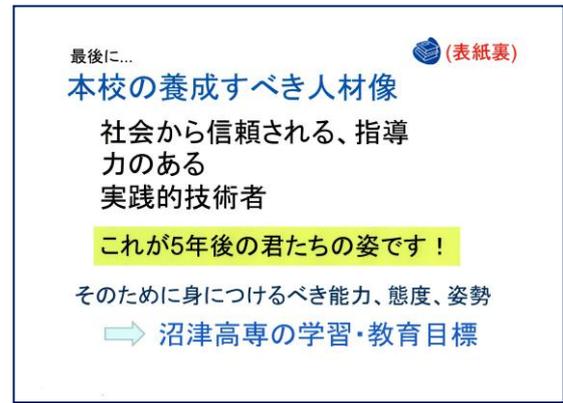
新任教職員オリエンテーションでの教育理念等の周知



(出典 平成 23 年度 新任教職員オリエンテーション スライド資料)

資料 1 - 2 - ① - 5

新入生オリエンテーションでの教育理念等の周知



(出典 平成 23 年度 新入生オリエンテーション スライド資料)

資料 1 - 2 - ① - 6

教育理念, 学習・教育目標, 専攻科教育目標揭示パネル



各学科等の教育目的は、学生便覧（資料 1-2-①-7）に学科等の概要紹介とともに掲載している。本校公式ウェブサイトの学科案内（資料 1-2-①-8）で各学科の概要紹介を掲載し、その中にも各学科等の目的を説明している。

資料 1-2-①-7

学科の教育目的

1. 学科の教育目的と概要

教 養 科

（教育目的）専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

（概要）沼津高専には5つの学科がありますが、どの学科に属する学生でも共通で学ぶ科目があります。これらを一般科目といいます。一般科目には大きく分けて2つの目的があります。ひとつは所属する学科の科目（専門科目）を学ぶための基礎学力を身につけること、もうひとつは健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を養うことです。

教育内容は、高等学校および大学の教養課程において教えられるほとんどの教科を含んでいます。工学の基礎としての数学と、国際的なコミュニケーション能力を養うための語学には多くの授業時間が充てられていますが、これら以外にも、理科、国語、社会、芸術、保健体育などの科目が、第1学年から第5学年までに、専門科目とのバランスを考えながら機能的に配置されています。

授業内容の特徴としては、知識の習得にとどまらず、実際に役に立てる力を身につけることに重点をおいています。そのため、作業、実習、実験、レポートによる報告等を多く採用しています。さらに専門科目の基礎としての性格の強い数学、物理、化学では、専門科目の学習へスムーズに移行できるよう配慮しています。

一般科目を主に担当している教員の組織が教養科です。高度な専門知識に裏付けられた確かな教育を低学年から展開することによって、広範な知識・技術そして的確な判断力・行動力を持ち、豊かな個性と社会性を兼ね備えた技術者を養成しています。

機 械 工 学 科

（教育目的）機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を育成することを目的とする。

（概要）機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力をもった“機械技術者”を養成することを目標としています。

低学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を学び、また全学年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得します。機械技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした主要科目は、低学年での工学基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機械工学

(83)

(出典 平成 23 年度 学生便覧 P. 83)

学科の目標等を掲載したウェブサイトの該当部分（機械工学科の例）

独立行政法人 国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

HOME 産官学交流 データベース 自己点検・評価等 証明書申請 シラバス 教育プログラム 教員・職員採用 リンク 広

COLLEGE GUIDANCE DEPARTMENT GUIDANCE ADVANCED COURSE GUIDANCE EXAMINATION GUIDANCE CAMPUS LIFE SPE

学校案内 学科案内 専攻案内 入試案内 キャンパスライフ オ

Department Guidance
学科案内

HOME > 学科案内 > 機械工学科

機械工学科
Mechanical Engineering

M E D S C I C

スタッフ紹介
カリキュラム
機械工学科ホームページ

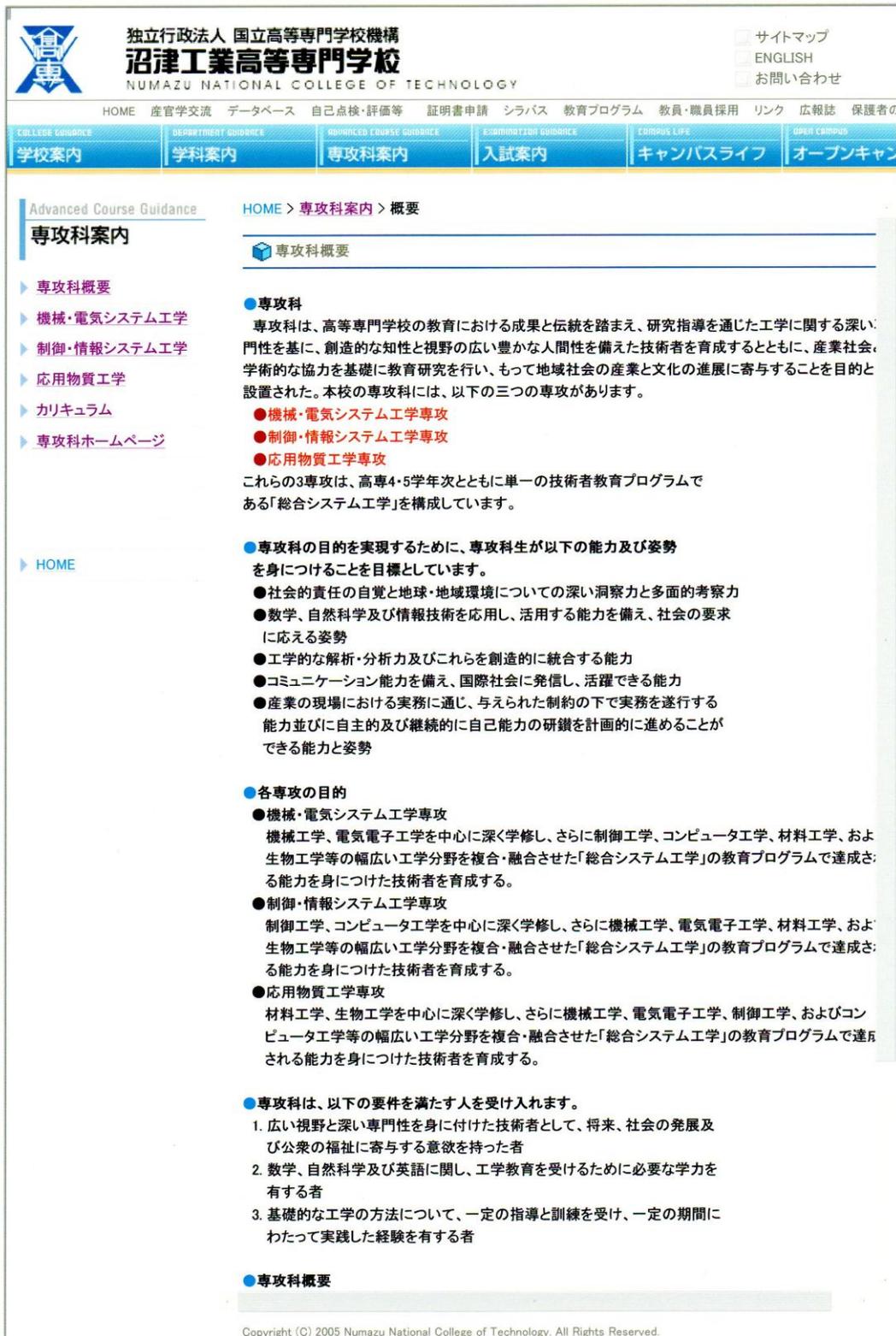
機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力を“者”を養成すること目標としています。
低学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を5年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得する技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした主要科目は、低学年基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機による実技と経験を通じて、その内容を深く理解できるものとしてあります。
また、情報処理技術・コンピュータ技術についても、専門科目との連携のもとに多角的に学んで行なわれる卒業研究では、知識や技術の活用だけでなく、さまざまな工学問題を解決する総合的な能力を養っています。

HOME

（出典 本校公式ウェブサイト）

専攻科の目標、各専攻の目的等は本校公式ウェブサイトに公開し（資料 1 - 2 - ① - 9）、パネルに作成したものを専攻科棟の主要個所に掲示して周知を図っている（前出資料 1 - 2 - ① - 6）。教育目標の実践指針は学生便覧に掲載し周知している（資料 1 - 2 - ① - 10）。

専攻科の目標、各専攻の目的を掲載したウェブサイト



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

HOME 産官学交流 データベース 自己点検・評価等 証明書申請 シラバス 教育プログラム 教員・職員採用 リンク 広報誌 保護者の

COLLEGE GUIDANCE DEPARTMENT GUIDANCE ADVANCED COURSE GUIDANCE EXAMINATION GUIDANCE CAMPUS LIFE OPEN CAMPUS
学校案内 学科案内 専攻科案内 入試案内 キャンパスライフ オープンキャン

Advanced Course Guidance HOME > 専攻科案内 > 概要

専攻科案内

- ▶ 専攻科概要
- ▶ 機械・電気システム工学
- ▶ 制御・情報システム工学
- ▶ 応用物質工学
- ▶ カリキュラム
- ▶ 専攻科ホームページ

▶ HOME

専攻科概要

- 専攻科
専攻科は、高等専門学校の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会、学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的と設置された。本校の専攻科には、以下の三つの専攻があります。
 - 機械・電気システム工学専攻
 - 制御・情報システム工学専攻
 - 応用物質工学専攻
 これらの3専攻は、高専4・5学年次とともに単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成しています。
- 専攻科の目的を実現するために、専攻科生が以下の能力及び姿勢を身につけることを目標としています。
 - 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力
 - 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
 - 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
 - コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力
 - 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢
- 各専攻の目的
 - 機械・電気システム工学専攻
機械工学、電気電子工学を中心に深く学修し、さらに制御工学、コンピュータ工学、材料工学、および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。
 - 制御・情報システム工学専攻
制御工学、コンピュータ工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、材料工学、および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。
 - 応用物質工学専攻
材料工学、生物工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、制御工学、およびコンピュータ工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。
- 専攻科は、以下の要件を満たす人を受け入れます。
 1. 広い視野と深い専門性を身につけた技術者として、将来、社会の発展及び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者
 2. 数学、自然科学及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力を有する者
 3. 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間にわたって実践した経験を有する者
- 専攻科概要

Copyright (C) 2005 Numazu National College of Technology. All Rights Reserved.

(出典 本校公式ウェブサイト)

専攻科教育目標の実践指針の掲載部分（抜粋）

1. 沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針

専攻科の教育目標は沼津高専学則第 46 条の 4 に定める次の“ A～E ”である（学則第 46 条の(1)～(5)は以下の A～E に対応する）。これらの目標を理解し実践するために、各項目に分項目“ 1～4 ”等を付して実践指針とする。

- A. 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。（工学倫理の自覚と多面的考察力）
1. 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
 2. 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
 3. 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
 4. これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。
- B. 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。（社会要請に応えられる工学基礎学力）
1. 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。
 2. ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。
 3. 実験／計算／フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。
 4. 自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。
- C. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。（工学専門知識の創造的活用能力）
1. 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決することができる。
 2. 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な

(51)

(出典 平成 23 年度学生便覧 P. 51)

平成 22 年度末（平成 23 年 2 月）に、教職員（非常勤講師を含む）と準学士課程及び専攻科課程の学生に対して、目的等の周知状況等についてアンケート調査を実施した。アンケート実施の数週間前に教育理念、学習・教育目標掲示パネル（前出資料 1 - 2 - ① - 6）を校内に掲示したが、それ以外にはアンケートに先立ち学生達に事前情報を与えることなく実施した。同アンケートでは、目的の周知度の他に、シラバスの活用状況、成績評価方法等の周知度、学修単位科目の周知度も併せて調査し、教職員に対してはアドミッションポリシーの周知度も加えて調査した。回答数は、準学士課程学生 972（1 年 206, 2 年 191, 3 年 204, 4 年 198, 5 年 173）、専攻科課程学生 55, 教職員 116（常勤教員 48, 非常勤講師 33, 技術職員 12, 事務職員 23）である。それぞれに対する質問内容は（資料 1 - 2 - ① - 11～13）に示す。「I. 本校の目的の周知度に関する調査」について、準学士課程学生に

対する設問 4 は「学習・教育目標」，専攻科課程学生に対する設問 4 は「専攻科教育目標」，教職員に対する設問 4 は「学習・教育目標」，設問 5 は「専攻科教育目標」について問うている。

資料 1 - 2 - ① - 11

目的の周知度等調査アンケートの質問 [準学士課程学生用]

平成 23 年 2 月 14 日

副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【本科学生用】

平成 23 年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願い申し上げます。マークシートに回答を記入し、学級担任教員へ提出してください。

以下の（設問 1）～（設問 13）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

I. 本校の目的の周知度に関する調査

- （設問 1）本校の「教育理念」を知っていますか。
 （設問 2）本校の「教育目的」を知っていますか。
 （設問 3）本校の「教育方針」を知っていますか。
 （設問 4）本校の「学習・教育目標」を知っていますか。
 （設問 5）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。

＜回答＞ 1. 全く知らない 2. 見聞きしたことはある 3. ある程度の内容まで知っている
 4. よく内容を知っている

II. シラバスの活用状況に関する調査

- （設問 6）科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。
 （設問 7）授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。
 （設問 8）成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。
 （設問 9）上記の目的以外にシラバスを利用していますか。

＜回答＞ 1. 全く利用しない 2. たまに利用する 3. よく利用する

III. 成績評価方法等の周知度に関する調査

- （設問 10）学業成績の評価の方法について学生便覧やシラバス等を見て知っていますか。
 （設問 11）進級・卒業認定の基準について学生便覧等を見て知っていますか。

＜回答＞ 1. 全く知らない 2. ある程度知っている 3. よく知っている

IV. 学修単位科目の周知度に関する調査

- （設問 12）学修単位科目は自学自修を含め 45 時間の学修で 1 単位とする科目であることを知っていますか。

＜回答＞ 1. 全く知らない 2. ある程度知っている 3. よく知っている

- （設問 13）学修単位科目について自学自修を実行していますか。

＜回答＞ 1. 実行していない 2. ある程度実行している 3. よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

（出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料）

目的の周知度等調査アンケートの質問 [専攻科課程学生用]

平成 23 年 2 月 14 日

副校長 (教務主事)

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【専攻科生用】

平成 23 年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願ひします。マークシートに回答を記入し専攻科研究指導担当教員へ提出してください。

以下の(設問 1)～(設問 13)に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

I. 本校の目的の周知度に関する調査

(設問 1) 本校の「教育理念」を知っていますか。

(設問 2) 本校の「教育目的」と「専攻科の目的」を知っていますか。

(設問 3) 本校の「教育方針」を知っていますか。

(設問 4) 本校の「専攻科教育目標」を知っていますか。

(設問 5) 本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。

<回答> 1. 全く知らない 2. 見聞きしたことはある 3. ある程度の内容まで知っている
4. よく内容を知っている

II. シラバスの活用状況に関する調査

(設問 6) 科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。

(設問 7) 授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。

(設問 8) 成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。

(設問 9) 上記の目的以外にシラバスを利用していますか。

<回答> 1. 全く利用しない 2. たまに利用する 3. よく利用する

III. 成績評価方法等の周知度に関する調査

(設問 10) 学業成績の評価の方法について知っていますか。

(設問 11) 専攻科の修了要件を知っていますか。

<回答> 1. 全く知らない 2. ある程度知っている 3. よく知っている

IV. 学修単位科目の周知度に関する調査

(設問 12) 専攻科の授業科目は自学自修を含め 45 時間の学修で 1 単位とすることを知っていますか。

<回答> 1. 全く知らない 2. ある程度知っている 3. よく知っている

(設問 13) 自学自修を実行していますか。

<回答> 1. 実行していない 2. ある程度実行している 3. よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

(出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料)

目的の周知度等調査アンケートの質問 [教職員用]

平成 23 年 2 月 14 日

副校長 (教務主事)

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート 【教職員 (非常勤講師含む) 用】

平成 23 年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いたします。マークシートに回答をご記入の上、平成 23 年 2 月 28 日 (月) までに教務係へご提出ください。

以下の (設問 1) ~ (設問 12) に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

I. 本校の目的の周知度に関する調査

- (設問 1) 本校の「教育理念」を知っていますか。
(設問 2) 本校の「教育目的」を知っていますか。
(設問 3) 本校の「教育方針」を知っていますか。
(設問 4) 本校の「学習・教育目標」を知っていますか。
(設問 5) 本校の「専攻科教育目標」を知っていますか。
(設問 6) 本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。

<回答>

1. 全く知らない 2. 見聞きしたことはある 3. ある程度の内容まで知っている
4. よく内容を知っている

II. 本校のアドミッションポリシーの周知度に関する調査

- (設問 7) 本校の「アドミッションポリシー」を知っていますか。

<回答>

1. 全く知らない 2. 見聞きしたことはある 3. ある程度の内容まで知っている
4. よく内容を知っている

- (設問 8) 本校専攻科の「入学者受入れ方針」を知っていますか。

<回答>

1. 全く知らない 2. 見聞きしたことはある 3. ある程度の内容まで知っている
4. よく内容を知っている

裏面に続きます。

Ⅲ. シラバスの活用状況に関する調査（常勤教員・非常勤講師の方のみご回答ください）

（設問 9）授業運営の中でシラバスを利用していますか。

＜回答＞

1. 全く利用しない 2. まれに利用する 3. よく利用する

（設問 10）授業運営の中でどのような目的でシラバスを利用していますか。

＜回答＞ 複数回答可

1. 授業の目的や概要を学生に知らせるため
2. 年間の授業計画を学生に知らせるため
3. 教科書や参考書について学生に知らせるため
4. 次回の授業内容を学生に知らせるため
5. 予習・復習を学生に促すため
6. 宿題や課題について学生に指示するため
7. 成績の評価方法や評価基準を学生に知らせるため
8. 授業の進度管理のため
9. その他

Ⅳ. 学修単位科目に関する調査（学修単位科目を担当している常勤教員・非常勤講師の方のみご回答ください）

（設問 11）学修単位科目は履修単位科目と異なり、自学自修を含め 45 時間の学修で 1 単位とする科目であることを学生に説明していますか。

＜回答＞

1. 説明していない 2. 説明している

（設問 12）学修単位科目について学生の自学自修の実施状況をどのように把握していますか。

＜回答＞複数回答可

1. 特に把握していない
2. 自学自修課題の解答を提出させることで把握している
3. 自学自修の実施記録を提出させることで把握している
4. 小テスト等で自学自修の成果を測ることで把握している
5. その他

以上、ご協力有難うございました。

（出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料）

上記アンケートによる「本校の目的の周知度に関する調査結果」を以下に示す。

1. 教育理念の周知度（資料 1-2-①-14）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は、教職員は平均してほぼ 80%、専攻科学生は 65%、準学士課程学生は約 45%であった。「見聞きしたことはある」まで含めれば、準学士課程学生以外はほぼ 100%である。準学士課程学生も 80%が知っていることになるが、内容まで理解していない者が多いことがうかがえる。

2. 教育目的の周知度（資料 1 - 2 - ① - 15）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は、事務職員を除く教職員はほぼ 75%、事務職員は 44%、専攻科学生は 62%、準学士課程学生は 24%である。平成 22 年度までの学生便覧には記載されていなかったが、平成 23 年度のものから記載するように改めた。

3. 教育方針の周知度（資料 1 - 2 - ① - 16）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は、事務職員を除く教職員はほぼ 75%、事務職員は 48%、専攻科学生は 60%、準学士課程学生は 23%である。「全く知らない」と答えた者の割合が、準学士課程学生は 30% 近くあり、周知度の向上を図る必要がある。教員でも 6～8% あることがわかった。

4. 学習・教育目標の周知度（資料 1 - 2 - ① - 17）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は、常勤教員は 85%、非常勤講師は 70%、技術職員は 75%、事務職員は 43%、準学士課程学生は 24%である。「全く知らない」と答えた者の割合が、準学士課程学生では 30% 近くあり、周知度の向上を図る必要がある。

5. 養成すべき人材像の周知度（資料 1 - 2 - ① - 18）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は、常勤教員は 83%、非常勤講師は 67%、技術職員は 58%、事務職員は 48%、専攻科学生は 78%、準学士課程学生は 45%である。

6. 専攻科教育目標の周知度（資料 1 - 2 - ① - 19）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は、常勤教員は 75%、非常勤講師は 55%、技術職員は 33%、事務職員は 48%、専攻科学生は 66%である。「見聞きしたことはある」まで含めれば、知っている専攻科学生はほぼ 100%に近い。教職員では専攻科に関わらない者がいるため、他の項目に比べ周知度が少し低くなっている。

全項目に関して、準学士課程学生に対する周知度が低い結果であった。「見聞きしたことはある」まで含めれば70～80%であり、存在は周知されているということになるが、内容の周知と理解を促すことが必要であることがわかった。そのため、平成23年4月から全ホームルームに教育理念等を記載したパネル（資料 1 - 2 - ① - 20）を掲示し学級担任を通じて改めて周知を図った。

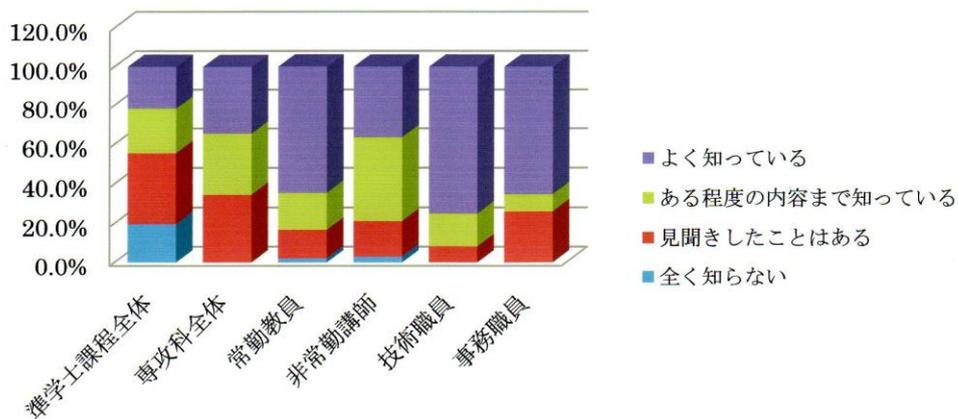
教育理念の周知度調査結果

教育理念の周知度調査結果

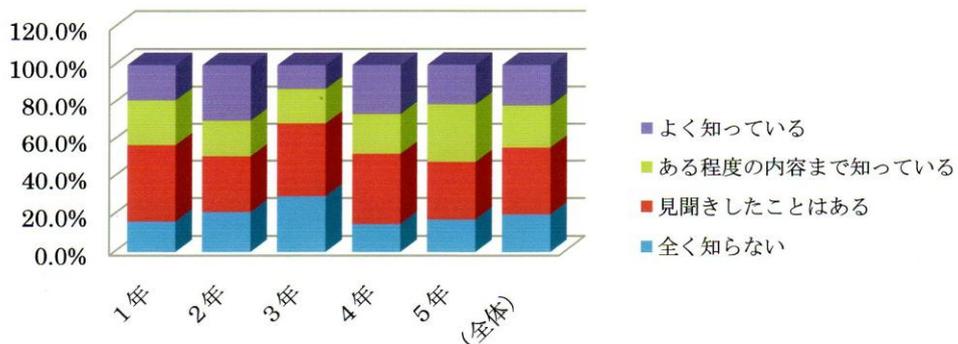
	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	19.7%	35.8%	22.8%	21.7%
専攻科全体	0.0%	34.5%	30.9%	34.5%
常勤教員	2.1%	14.6%	18.8%	64.6%
非常勤講師	3.0%	18.2%	42.4%	36.4%
技術職員	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%
事務職員	0.0%	26.1%	8.7%	65.2%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	16.0%	40.8%	24.3%	18.9%
2年	20.9%	29.8%	19.4%	29.8%
3年	29.4%	39.2%	18.6%	12.7%
4年	14.6%	37.4%	21.7%	26.3%
5年	17.1%	30.6%	31.2%	21.2%
(全体)	19.7%	35.8%	22.8%	21.7%

教育理念の周知度



教育理念の周知度 (準学士課程 学年別)



(出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料)

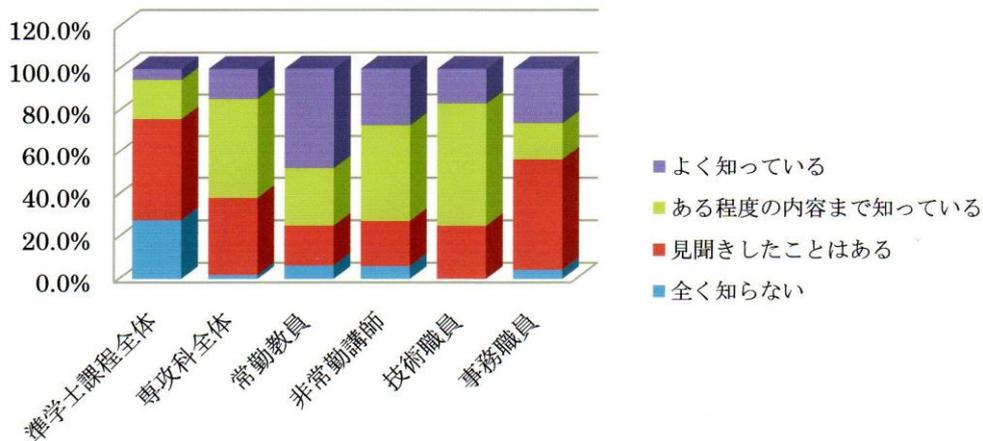
教育目的の周知度調査結果

教育目的の周知度調査結果

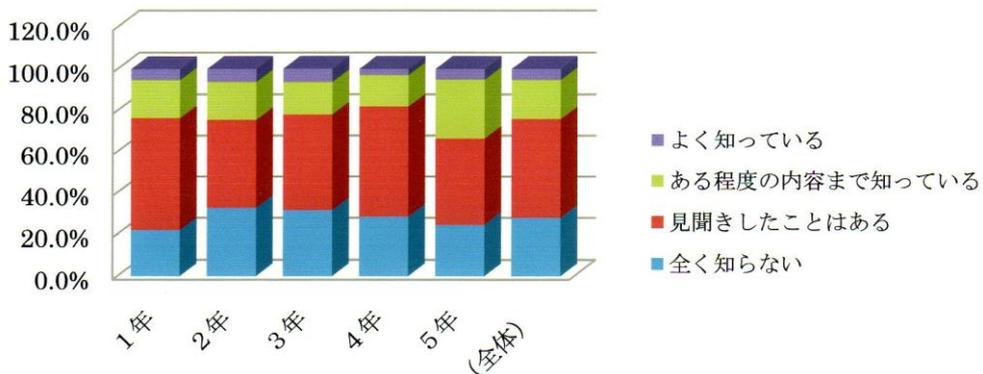
	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	27.7%	48.1%	18.9%	5.3%
専攻科全体	1.8%	36.4%	47.3%	14.5%
常勤教員	6.3%	18.8%	27.1%	47.9%
非常勤講師	6.1%	21.2%	45.5%	27.3%
技術職員	0.0%	25.0%	58.3%	16.7%
事務職員	4.3%	52.2%	17.4%	26.1%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	21.8%	54.4%	18.4%	5.3%
2年	32.5%	42.9%	18.3%	6.3%
3年	31.4%	46.6%	15.7%	6.4%
4年	28.3%	53.5%	15.2%	3.0%
5年	24.4%	41.9%	28.5%	5.2%
(全体)	27.7%	48.1%	18.9%	5.3%

教育目的の周知度



教育目的の周知度 (準学士課程 学年別)



(出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料)

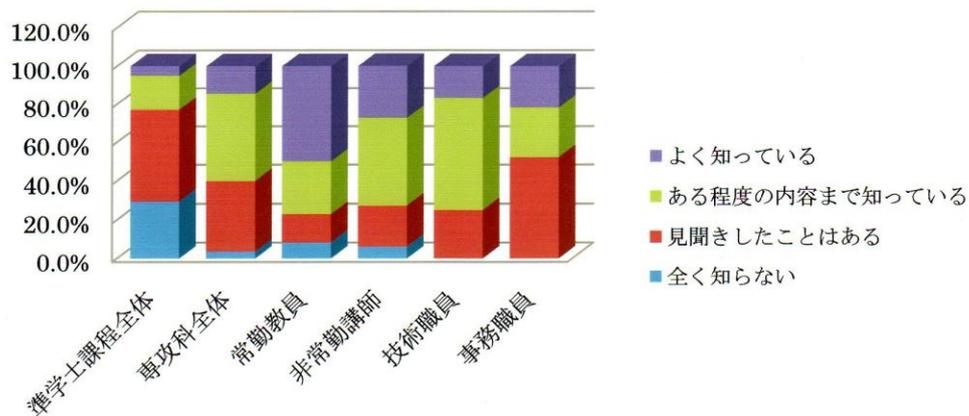
教育方針の周知度調査結果

教育方針の周知度調査結果

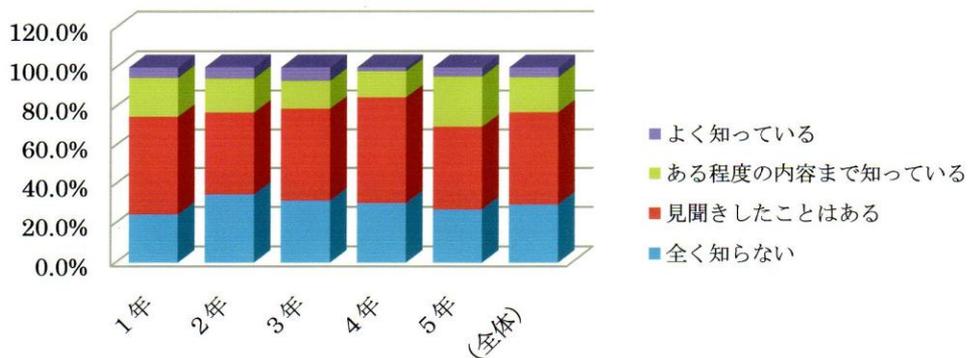
	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	29.4%	47.7%	17.9%	5.0%
専攻科全体	3.6%	36.4%	45.5%	14.5%
常勤教員	8.3%	14.6%	27.1%	50.0%
非常勤講師	6.1%	21.2%	45.5%	27.3%
技術職員	0.0%	25.0%	58.3%	16.7%
事務職員	0.0%	52.2%	26.1%	21.7%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	24.3%	50.5%	19.9%	5.3%
2年	34.6%	42.4%	17.3%	5.8%
3年	31.4%	47.5%	14.2%	6.9%
4年	30.1%	54.6%	13.3%	2.0%
5年	26.9%	42.7%	25.7%	4.7%
(全体)	29.4%	47.7%	17.9%	5.0%

教育方針の周知度



教育方針の周知度 (準学士課程 学年別)



(出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料)

資料 1 - 2 - ① - 17

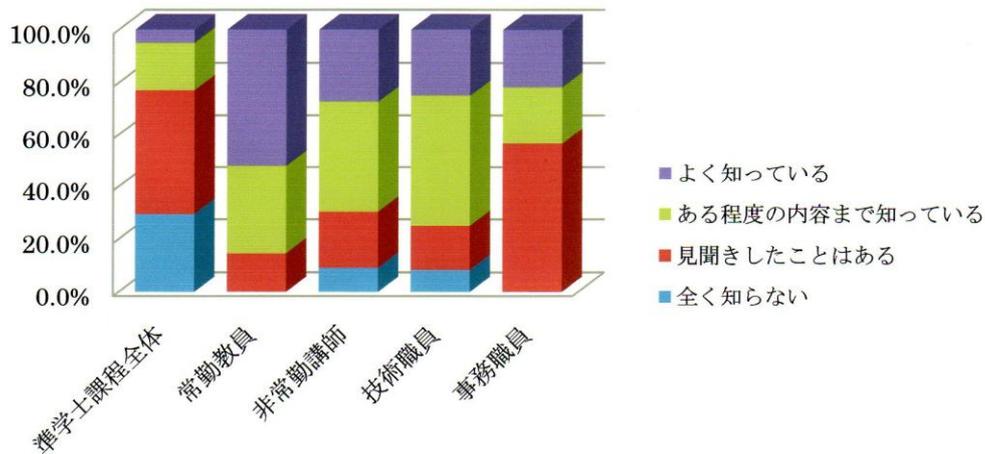
学習・教育目標の周知度調査結果

学習・教育目標の周知度調査結果

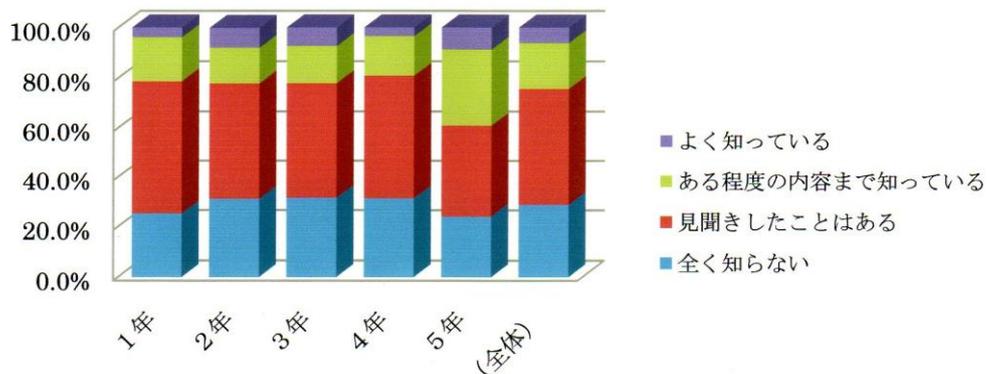
	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	29.4%	47.7%	17.9%	5.0%
常勤教員	0.0%	14.6%	33.3%	52.1%
非常勤講師	9.1%	21.2%	42.4%	27.3%
技術職員	8.3%	16.7%	50.0%	25.0%
事務職員	0.0%	56.5%	21.7%	21.7%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	25.2%	53.4%	17.5%	3.9%
2年	31.1%	46.6%	14.2%	7.9%
3年	31.5%	46.3%	14.8%	7.4%
4年	31.3%	49.5%	15.7%	3.5%
5年	24.0%	36.8%	30.4%	8.8%
(全体)	28.7%	46.9%	18.2%	6.2%

学習・教育目標の周知度



学習・教育目標の周知度 (準学士課程 学年別)



(出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料)

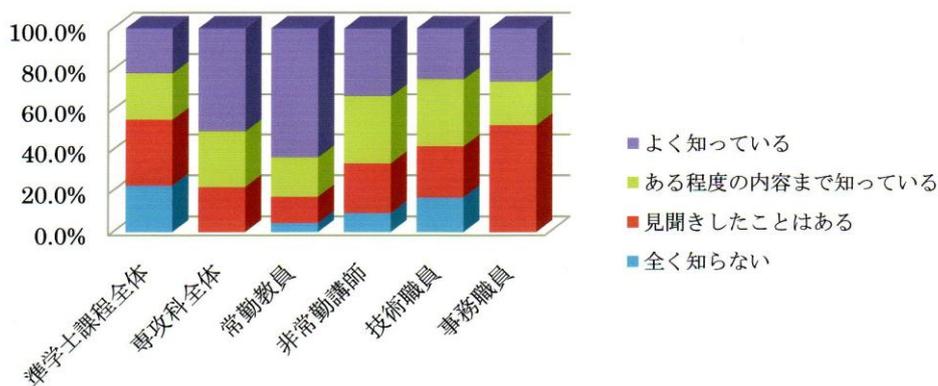
養成すべき人材像の周知度調査結果

養成すべき人材像の周知度調査結果

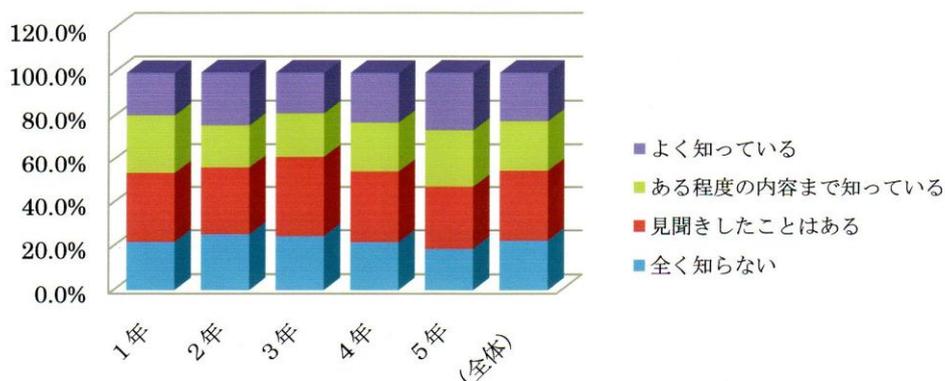
	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	22.5%	32.4%	23.0%	22.1%
専攻科全体	0.0%	21.8%	27.3%	50.9%
常勤教員	4.3%	12.8%	19.1%	63.8%
非常勤講師	9.1%	24.2%	33.3%	33.3%
技術職員	16.7%	25.0%	33.3%	25.0%
事務職員	0.0%	52.2%	21.7%	26.1%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	21.8%	32.0%	26.7%	19.4%
2年	25.3%	31.1%	19.5%	24.2%
3年	24.5%	36.8%	20.1%	18.6%
4年	21.7%	32.8%	22.7%	22.7%
5年	18.7%	28.7%	26.3%	26.3%
(全体)	22.5%	32.4%	23.0%	22.1%

養成すべき人材像の周知度



養成すべき人材像の周知度 (準学士課程 学年別)



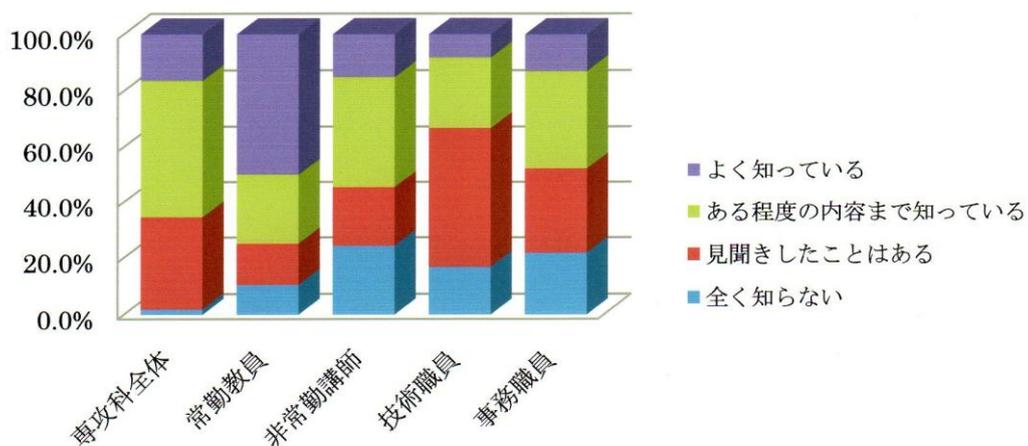
(出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料)

専攻科教育目標の周知度調査結果

専攻科教育目標の周知度調査結果

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
専攻科全体	1.8%	32.7%	49.1%	16.4%
常勤教員	10.4%	14.6%	25.0%	50.0%
非常勤講師	24.2%	21.2%	39.4%	15.2%
技術職員	16.7%	50.0%	25.0%	8.3%
事務職員	21.7%	30.4%	34.8%	13.0%

専攻科教育目標の周知度



(出典 平成 22 年度実施アンケート調査資料)

教育理念等のホームルームへの掲示



(分析結果とその根拠理由)

学生便覧，概要，ホームページ等へ掲載し，さらに常に目に触れるようパネルを作成して校内の主要個所に掲示するなどして周知を図っている。特に年度当初には新入生，新任教職員にはオリエンテーションを通じて周知を図っている。平成23年2月に行った周知度調査アンケートの結果によれば，教育理念，教育目的，教育方針，学習・教育目標（専攻科は専攻科教育目標）について「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，教職員は平均して70～80%，専攻科学生は60～70%であることから，周知されていると判断する。準学士課程学生については「聞きしたことはある」まで含めれば70～80%であり，それらの存在は周知されているが，内容の理解を促すために全ホームルームに教育理念等を記載したパネルを掲示し担任教員を通じて周知を徹底したことにより，周知されたと判断する。

観点1-2-②： 目的が，社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校公式ウェブサイト，教育理念・教育目的等（前出資料1-2-①-2），及び専攻科の目標等（前出資料1-2-①-9）を掲載し社会に広く公表している。

印刷物では，本校学校概要（前出資料1-2-①-3）を就職関連企業からの来訪者，来客，進学説明会，1日体験入学，中学校訪問等で広く配布している。その他，入試広報資料（資料1-2-②-1，2）にも教育理念・教育目的・教育方針等を記載し，県内外の中学校への送付，中学校訪問，進学説明会，1日体験入学，個別対応のオープンキャンパス，公開講座，出前授業等を通じて広く配布している。平成22年度より，入試広報リーフレット（イントロダクション）は静岡県内全中学校の3年生全員に配布している。進学説明会，1日体験入学，個別対応のオープンキャンパス等では資料の配布と併せて，スライドを用いて説明している（資料1-2-②-3）。入学者募集要項にも明記している（資料1-2-②-4～6）。これら資料の配布部数等は（資料1-2-②-7）に示す。

入試広報リーフレット（イントロダクション）

資料1-2-②-1

(出典 NCT Today INTRODUCTION 2011)

入試広報リーフレット



教育方針

- 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う
- コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う
- 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う
- 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う

MECHANICAL ENGINEERING 機械制御工学科

S CONTROL & COMPUTER ENGINEERING 制御情報工学科

C CHEMISTRY & BIOCHEMISTRY 物質工学科

コンピュータ環境のもとで、コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータを利用した「モノづくり」を通して社会に貢献できる技術者を育てることを目標としています。卒業後は、情報通信、自動車、ロボット、家電、医療機器等、幅広い産業分野で活躍できます。

化学反応や生物の力を利用した新しい物質の創造・生産について学びます。高学年では、材料化学と生物工学の二つのコースに分かれ専門を深めます。卒業後は主に素材開発や物質生産において、幅広い産業分野で活躍します。

(出典 NCT Today 2010)

進学説明会用スライド資料

進学説明会

学校紹介と
入試制度説明

本日は、お忙しいところ
ご出席いただき
ありがとうございます。

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校

沼津高専の教育理念

人柄のよい
優秀な技術者となって
世の期待にこたえよ

沼津高専の目的

本高専は、

1. **豊かな人間性**を備え、
2. 社会の要請に応じて**工学技術の専門性**を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって
3. **地域の文化と産業の進展に寄与**することを目的とする。

沼津高専 学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

- 1 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 2 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 3 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 4 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 5 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

(出典 平成 22 年度進学説明会用「学校紹介と入試制度」スライド)

準学士課程学生募集要項

平成 23 年度

学生募集要項

(出願書類添付)

書 類	期 間	平成23年1月11日(火)～1月13日(木)
面 接 等		平成23年1月23日(日)
判 定 結 果 通 知		平成23年1月27日(木)
学 費 受 付 期 間		平成23年1月31日(日)～2月4日(金)
力 検 査		平成23年2月25日(日)
合 格 者 発 表		平成23年2月25日(金)
入 学 説 明 会		平成23年3月3日(木)

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
電 話 055-926-5962

教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

教育方針

- 1 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- 2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 4 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- 1 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 2 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 3 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 4 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 5 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

学生受入方針

- 1 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 2 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 3 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 4 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

(出典 平成 23 年度 学生募集要項)

編入学生募集要項

平成 23 年度

編入学生募集要項

(出願書類添付)

出願受付期間	選 抜 期 日	合格発表日
平成22年7月26日(月)～ 7月28日(水)	平成22年8月9日(日)	平成22年8月13日(木)

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
電 話 055-926-5962

入学案内

工業高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」ことを目的とし、豊かな教養と専門の技術を身につけた実践的な技術者の育成を使命としており、中学校卒業程度を入学資格とする5年制の一貫教育を行う国立の高等教育機関(大学等)です。

本校では、理論的な基礎とともに、実験・実習を重視し、実践的エンジニアを養成しており、卒業生は希望にかなった会社へ就職でき、また、更に深く勉強したい人には、大学の3学年への編入学、高専専攻科への道が開かれています。

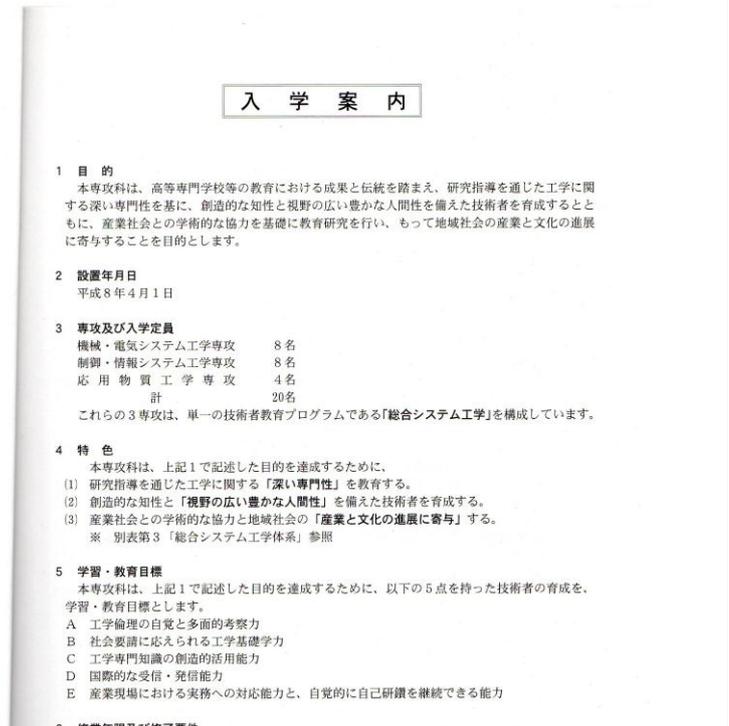
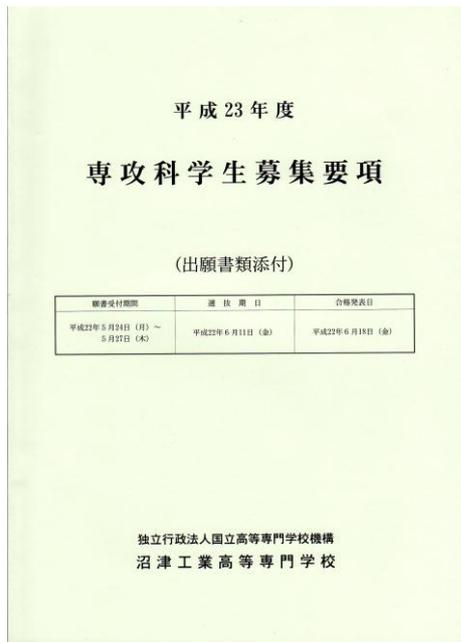
1. 沼津工業高等専門学校編入学生受け入れ方針

本校は以下の条件を満たす有資格者の高専4学年又は3学年への編入学を受け入れます。

- (1) 技術者になるという明確な意志があること。
- (2) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
- (3) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
- (4) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理系科目、の基本的な学力を有していること。
- (5) 高等学校における工業教育、もしくは自然科学教育の教科目において、継続的な学習を行ってきた経験があること。
- (6) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

(出典 平成 23 年度 編入学生募集要項)

専攻科学生募集要項



(出典 平成 23 年度 専攻科学生募集要項)

各種資料の配布先と配布部数等

資料・作成部数	配布先・用途	配布部数	備考
1. 学校概要・2400部	来客等用	750部	
	進学説明会・体験入学・中学校訪問等	1,200部	
	就職関係企業用他	450部	
2. 入試広報リーフレット・68,000部 (イントロダクション)	静岡県内中学校 265校	36,201部	残部は、進学説明会・体験入学・中学校訪問・出前授業・公開講座・個別オープンキャンパス等でほぼすべて配布
	山梨県内中学校 93校	9,570部	
	神奈川県内中学校 70校	10,799部	
3. 入試広報リーフレット・12,000部 NCT Today	静岡県内中学校 291校	5,300部	残部は、進学説明会・体験入学・中学校訪問・出前授業・公開講座・個別オープンキャンパス等でほぼすべて配布
	山梨県内中学校 92校	920部	
	神奈川県内中学校 94校	940部	
4. 進学士課程学生募集要項・2000部	静岡県内中学校 265校	265部	残部は、進学説明会・体験入学・中学校訪問・出前授業・公開講座・個別オープンキャンパス等でほぼすべて配布
	山梨県内中学校 92校	92部	
	神奈川県内中学校 94校	94部	
5. 編入学生募集要項・370部	静岡県内高等学校 146校	205部	残部は、進学説明会・体験入学・中学校訪問・出前授業・公開講座・個別オープンキャンパス等でほぼすべて配布
	山梨県内高等学校 6校	9部	
	神奈川県内高等学校 15校	15部	
6. 専攻科学生募集要項・200部	国公立私立高専 61校	61部	

行事	実施回数	参加者数 / 広報資料配布部数
1. 中学校訪問	県内中学校 160校	広報資料配布部数 : 320 広報資料配布部数 : 46
	県外中学校 23校	
2. 一日体験入学	1回	参加者総数 : 946名 (中学生 : 500、保護者 : 442、中学校教諭 : 4)
3. 進学説明会	10回	参加者総数 : 693名 (中学生 : 138、保護者 : 169、中学校教諭 : 71)
4. 出前授業	25回	広報資料配布部数 : 280
5. 公開講座	32回	受講生総数 : 373、広報資料配布部数 : 448
6. 個別オープンキャンパス	12回	来校者総数 : 23

(出典 総務課及び学生課入試係の平成 22 年度資料より調査)

(分析結果とその根拠理由)

本校公式ウェブサイトにて教育理念・教育目的、専攻科の目標等を公開し社会に広く公表している。印刷物では、学校概要、入試広報資料及び学生募集要項等に教育理念・教育目的・教育方針等を記載し、県内外の中学校等への送付、中学校訪問、進学説明会、一日体験入学、個別対応のオープンキャンパス、公開講座、出前授業等への参加者及び就職関連企業からの来訪者等へ広く配布し公表しており、目的が社会に広く公表されていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育理念、教育目的、教育方針、学習教育目標、養成すべき人材像、教養科・各専門学科の教育目的、本校の学生受入方針を規則として明確に定め、本校公式ウェブサイトにてわかりやすく公開している点及び、静岡県内全中学校の3年生全員に入試広報リーフレット（イントロダクション）を配布し、教育理念と教育方針を広く周知している点で優れている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校は、学則第1条においてその目的を明確に定めている。さらに、初代校長の遺訓である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」を教育理念とし、これを柱として、教育目的、教育方針、学習教育目標、養成すべき人材像、教養科・各専門学科の教育目的及び本校の学生受入方針を平成20年5月に「沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則」として整備した。専攻科の目的は学則第45条に定め、その目的を実現するための教育目標を学則第46条の4に明確に定め、さらに、専攻科の教育目標を実践するための指針として、具体的達成目標を「沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針」として定めている。各専攻の目的は平成23年2月に定め本校公式ウェブサイトにてスローガンとして開示している。これらは、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に則ったものとなっている。

本校の教育理念、教育目的等は、教職員に対しては、学生便覧の配布と本校公式ウェブサイト及び、新任教職員に対しては、本校概要の配布と新任教職員オリエンテーションでの説明により周知している。学生に対しては、学生便覧の配布、教室及び校内主要個所への掲示、新入生オリエンテーションでの説明等により周知している。平成22年度末に実施した周知度調査アンケートでは、教職員及び専攻科学生には概ね周知されていると判断できる結果が得られたが、準学士課程学生については満足できる結果でなかったため、全ホームルームに教育理念等を記載したパネルを掲示し担任教員を通じて周知を徹底する対応をした。

社会一般に対しては、本校公式ウェブサイトにて教育理念、教育目的等、及び、専攻科の目標等を掲載し広く公表している。印刷物では、学校概要、入試広報資料及び学生募集要項等に、教育理念、教育目的、教育方針等を記載し、県内外の中学校、高等学校、全国高専等へ送付し、中学校訪問、進学説明会、一日体験入学、個別対応のオープンキャンパス、公開講座、出前授業等への参加者及び就職関連企業等からの来訪者へ多数部を配布し広く公表している。

